

巻頭言

城西大学は昭和40年に、「学問による人間形成」を建学の精神として創設されました。創立者水田三喜夫先生は、学問はそれ自体が目的ではなく、あくまで人間形成の手段であると述べられています。数学科は、開学と同時に埼玉県坂戸市のキャンパス1号館に定員80名の学科として開設されました。教育では純粋数学に重きをおき、多くの中学、高校の数学教員を輩出してきました。半世紀近く日月が経過した平成25年に、数学科は坂戸キャンパスと東京紀尾井町キャンパスの2校地体制に移行しました。坂戸キャンパスでは純粋数学に力点をおき、紀尾井町キャンパスでは応用数学に力点をおいた教育を展開しました。数学科全体の定員は120名で、各キャンパスごとに60名ずつの定員です。学生が入学時にどちらかのキャンパスを選ぶ“キャンパス選択制”でもあります。それから10年後の令和5年に、坂戸の数学科はキャンパスの建て替えによって開学以来の1号館から新設の23号館へ移転しました。さらに、紀尾井町の数学科を母体とした新学科構想も立ち上がりました。数学科は転機を迎えました。

さて、数学は多くの面を持っている学問です。まず、何よりも古代まで遡る悠久の学問です。一例をあげると、エジプトやバビロニアの古代文明において幾何学が土地の測量など実用的な必要性から始まったと言われています。それは古代ギリシャにおいて、実用性を超えて、点、直線、円などの純粋な幾何学的対象に対して厳密で華麗な論理体系が構築された学問となりました。このような数学の世界に魅せられた学生も多いでしょう。他方、数学には美的、ときには遊戯的ともとられる面の他に、社会につながる確固たる一面もあります。事実、数学者は情報、金融などの産業界でも活躍しています。特に、我が国の目指すソサエティ5.0では、数学科で学んだ知識が大きなパワーを社会で発揮する源となると期待されています。

ソサエティ5.0は現実空間とサイバー空間の高度な融合を目指しています。サイバー空間はコンピュータネットワーク上に構築された巨大なデジタルの情報と論理のシステムと言えるでしょう。しかし、数学と親和性のあるデジタルの情報と論理だから、数学科の学生は自ずとこの方向の勉学を好むはずだと安易に思ってはなりません。我が国の工学部に情報工学科が新設され始めた昭和の中頃、情報科学分野にも精通したある数学の碩学が、数学科に入ってくる学生はそのうちコンピュータ嫌いばかりになるだろうと警鐘を鳴らしました。情報関係の学科が隆盛を極めている昨今、数学と情報科学の相同と差異が数学科の在り方に影響を与えてきています。

さて、転換期を迎えた本学数学科は、今までの教育に対する深い考察に基づいた新たな時代の教育のビジョンを打ち出すことが求められています。本号はその一助として貢献することを目的としています。

編集一同